

## 公益社団法人日本地震学会平成24年度第10回理事会議事録

1. 日 時 平成25年3月19日(火) 13:00~17:00
2. 場 所 東京大学地震研究所2号館第2会議室
3. 理事数 15名
4. 出席者 理事11名、監事2名、オブザーバー1名
  - ・理事:加藤照之、岡元太郎、岡本義雄、香川敬生\*、加藤尚之、小泉尚嗣、武田哲也、西澤あずさ、堀川晴央、松原 誠、モリ ジェームズ ジロウ (\*テレビ会議による出席)
  - ・監事:川崎一朗、鈴木善和
  - ・オブザーバー:若手学術奨励賞選考委員長
  - ・事務局:工藤智美、中西のぶ江

### 5. 審議事項

議長加藤照之は、本日の理事会の理事出席者が11名であり定足数を満たしているため、理事会が成立することを宣言した。スカイプを利用し、東京大学地震研究所と鳥取大学とで同時に会議に参加できるようにし、審議を確実に行うことができることを両者で確認した。続いて、以下の議案について、逐次審議に入った。

#### 第1号議案 2012年度学会賞に関する件

2012年度論文賞推薦候補論文について、論文賞選考委員長にかわり岡元常務理事より説明が行われた。瀬野論文は、新しい知見を含んだ独自性のある総合報告であり、論文賞規定の条文「レビュー論文は除く」には該当しないと判断したこと、また速報として出されたレターについても重要性を高く評価し推薦したことが報告された。また、2012年度若手学術奨励賞推薦候補者について若手学術奨励賞選考委員長より説明が行われた。審議の結果、2012年度受賞対象を以下の通り決定した。

#### ○ 論文賞

- ・ 南海トラフ巨大地震—その破壊の様態とシリーズについての新たな考え—  
瀬野徹三  
地震第2輯, 第64巻, 第2号, 97-116, 2012
- ・ 新潟—神戸ひずみ集中帯を横断する測地観測による越後平野周辺の地殻変動  
西村卓也・水藤尚・小林知勝・飛田幹男  
地震第2輯, 第64巻, 第4号, 211-222, 2012
- ・ Tsunami source of the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake  
Yushiro Fujii, Kenji Satake, Shin'ichi Sakai, Masanao Shinohara, and

Toshihiko Kanazawa,  
Earth Planets and Space, 63, 815-820, 2011

○ 若手学術奨励賞

- ・ 鈴木岳人  
数理物理的視野に立った動的地震破壊過程の包括的理解
- ・ 前田拓人  
広帯域地震波・津波のモニタリングとシミュレーションの融合研究
- ・ 浅野公之  
強震動生成過程の解明と強震動予測の高度化に関する研究

第2号議案 平成25年度収支予算案について

平成25年度収支予算案について加藤会計担当理事より説明が行われた。審議の結果、原案を全会一致で承認した。なお、今後の課題として「予稿集」、「モノグラフ」、「地震」の電子版への移行を検討し、平成26年度以降の一層の経費削減を目指す。

第3号議案 平成25年度事業計画案について

平成25年度事業計画案について加藤会長より説明が行われた。審議の結果、原案を一部修正の上、全会一致で承認した。

第4号議案 事務局職員採用と職員給与・退職金について

平成25年3月31日付での事務局職員工藤の退職に伴い、新規採用の候補者3名について書類選考および面接を行ったことが加藤会長より報告された。選考の結果、岡野美紀子さんを平成25年4月1日より採用することを決定した。また、次年度の職員の俸給、及び退職金額を審議し、金額を確定した。

第5号議案 特別シンポジウムについて

来年度の特別シンポジウムのテーマの募集方法を検討した。今年度はメールニュースを通じて公募したが、来年度は「地震学会として地震学をどのように社会に伝えていくか」という課題を理事会から提案してはどうかとの意見が出された。しかし、監事より「伝えるべき地震学とは何か」を、ワーキンググループでもう少し議論した上で提案した方がよいとの意見が出され、審議の結果、来年度のシンポジウムのテーマは広く会員から公募することとした。また、引き続き「地震学を社会に伝えるWG」での検討を進める。

第6号機案 上町断層露頭保全についての要請文について

上町断層（佛念山断層）の撓曲露頭が開発で失われることのないよう、保全を求める要

望書を地震学会から提出してほしいと、2月1日付で大阪大学の廣野哲朗会員より依頼があったことが、加藤会長より報告された。日本地質学会、日本活断層学会他にも同様の依頼文が出され、その後、香川理事から経過報告があった。状況に鑑みて、要望書の提出は差し控えることとした。

#### 第7号議案 入会申請者の承認について

議長から、入会申請者の承認に関する件について諮られ、審議の結果、正会員に申し込みのあった2名（内学生0名）、賛助会員1社の入会を全会一致で承認した。

#### 6. 報告事項

以下の報告があった。

1. 正会員16名の退会届が提出された。
2. メディアからの取材が増えていることから、問題点の情報共有と学会としての対応策を検討した。
3. 強震動委員会、学校教育委員会、広報委員会、地震予知検討委員会、普及行事委員会からなる「地震学を社会に伝えるWG」の第1回会合を、2月20日に実施したことが、加藤会長より報告された。会合では、ワーキンググループ設立の経緯と趣旨説明に続き、各委員会の活動及び問題点が紹介され、種々意見交換を行ったことが報告された。
4. 2月18日に「学会の財務改善対策打ち合わせ」を開催したことが、西澤副会長より報告された。財政改善策として、まず、会費納入用の振込用紙に寄付金の欄を設け、寄付を呼びかけることとした。また、予稿集の印刷版を廃止することが提案され、大会・企画委員会と相談し、総会で意見を聞きながら、検討を進めることとした。
5. 松原広報担当理事の異動により、新しく4月から広報委員長代理を立てることが報告された。海洋研究開発機構の田中聡委員を広報委員長代理とし、理事メンバーリストにも登録することとした。
6. 「なみふるギフト」増加策を委員会で検討していることが、松原広報担当理事より報告された。来年度実施する方策として、ニューズレター3月号に続き、5月号、9月号にも「なみふるギフト」の案内を載せ、冊子体の読者の増加を目指す。また、会費振込用紙に「なみふるギフト」のチェック欄を付け、申込書を同封してはどうかとの意見が出された。
7. 江戸東京博物館ホールで8月27日に開催を予定している、「関東地震90周年シンポジウム」のプログラムが紹介された。東京都、墨田区、NHKに現在後援を依頼していることが加藤会長より報告された。
8. ジョン・ミルン没後100年特別公開「日本地震学の基礎をつくった男『ジョン・

ミルン』(仮)は、国立科学博物館で2013年6月～9月の開催を予定しているが、7月13日をイベントの日として、トワイクロス氏が制作したミルンのドキュメンタリーの上映会、「女の海溝」著者の森本貞子氏、柴田明德氏のトークショーを検討していることが加藤会長より報告された。

9. 平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞授賞者として、以下の2名に内定通知があったことが報告された。
  - ・三宅 弘恵 「強振動予測における震源モデル化の研究」
  - ・宮澤 理稔 「地震の動的誘発と発生過程の研究」
10. 2013年度定時社員総会は、平成25年5月21日(火)に幕張メッセ国際会議場302室で開催することが、岡元常務理事より報告された。
11. 平成25年度の外部監事を引き続き鈴木善和監事にお願いしたいと岡元常務理事より提案があり、鈴木監事はその旨了承した。
12. EPSのテラパブとの出版契約は今年末で終了し、それ以降は、一般競争入札で業者を選定する方針であることが、堀川欧文誌編集担当理事より報告された。
13. ニュースレター24巻6号に掲載した記事『『行動計画2012』に関する経緯と頂いた意見について』、と『『地震予知の科学』出版の経緯と改訂本中止の総括』について、メールニュースでも周知することが武田学会情報誌担当理事より報告された。
14. モリ理事が米国地震学会の理事も兼務していることから、米国地震学会との学術大会の共催などの共同事業を行ってはどうかとの提案があった。意見を交換したが、モリ理事が出席予定の4月の米国地震学会理事会での議論を待つこととした。